

Respice Stellam, Voca Mariam !



小嶋会通信

～私たちのしていることは大海の一滴にすぎないと感じています。

けれど、もしその一滴がなければ、海はその一滴分、確かに少ないということです。～マザー・テレサ

トルコ南東部地震救援募金

～以下、カリタスジャパンホームページ 2023年2月10日掲載文より～

カリタスジャパンは「トルコ南東部地震救援」募金の受付を開始しました。

2月6日未明、トルコ南東部とシリアでマグニチュード7.8の大地震が発生、その数時間後には別の大地震も発生し、現地は壊滅的な状況に陥っています。両国ではすでに1万人を超える人の死亡が報告されており、今後も増えることが予想されています。

国際カリタスでは、カリタス・トルコや現地のカリタスを通して被害の規模やニーズの把握をすすめています。

カリタスジャパンは今回の地震の被害規模と被災地状況を踏まえ、「トルコ南東部地震救援」募金を受け付けることを決定しました。お寄せいただいた募金は、被災地域で行われる救援活動のために活用させていただきます。

東日本大震災を忘れない

当時、震災ボランティア活動に取り組んだ先輩の作文を再掲載します。

震災の年の夏に、宮城県・塩釜から離島へ通い、活動しました。島内では亡くなった方はいませんでしたが、訪れた時期にようやく離島の復興が始まったところで、島は、まだ震災直後のままでした。以後、明星高校からは、災害ボランティア・センターが一応の役目を終えるまで、毎年、宮城県にボランティア派遣を続けました。



夏休みに訪れたが、離島はまだまだ手つかずだった。

当時 高校1年生

東北大震災ボランティアに8月8日から12日まで行きました。行く前と帰ってきた後一番多く受けた質問は「どうしてボランティアに行ったのか。」という質問でした。この質問を受けた時自分にははっきりとした答えを返すことができませんでした。「被災地の状況を見て、いてもたってもいられなかった。」とか、「自分にも何かできることがあるはずだ。」とかそんなもっもらしいことは思いついても明確に「これだ。」と思えるものがなかったのです。なので、ボランティアから帰ってきて一番思ったことは「どうして自分はボランティアに行った

のだろうか。」ということでした。いまだにこの間に答えることはできません。だから、これからこの間にたいして明確な答えを得られるようにこの文章を書きたいと思います。

行く前には、行かなくてはいけないという一種の義務感のようなものに追われるようにして現地向かいました。そこには、ニュースとは全然違う圧倒的なまでの悲惨な状況が広がっていました。駅から出ると半壊した店や折れ曲がった電柱、舗装のはげた道路がありました。ですがそれはまだ序の口にすぎませんでした。拠点となる塩釜ベースにつき、そこの方に海岸に連れて行ってもらいました。そこには内陸の方の地震の被害ですらまだマシだと思えるほどの光景が広がっていました。地盤沈下で海に沈んだ土地、土台だけになってしまった家、子どもが使っていたのであろう縫いぐるみ、毎日の生活を感じさせるお茶碗や箸、そしてそんなものの中に一本の葉を真っ赤にして立ち枯れてしまっている松がありました。そのもの悲しさは想像を絶するものでした。なにかしよう、こんな状況を少しでも改善できるように頑張ろう。そう思いました。

1日目は、寒沢島にて瓦礫と流れ込んだ土砂の撤去を行いました。この寒沢島は昨日見た本土の海岸よりも悲惨なように感じました。本土の海岸は、瓦礫の撤去作業が済み家が土台しか残っていませんでした。しかし、この寒沢島ではまだ瓦礫の撤去作業が済んでいませんでした。なので、津波の傷跡がもろに見えたのです。一階部分だけがなくなった家、家具で埋まった田んぼ、

屋根だけ残した家。そこの人達はそんな状況でも笑顔で自分たちを迎えてくださいました。半壊した家の瓦礫撤去をしたのですが、その家の人は笑って「ありがとう」と言ってくださったのです。こんなに辛い状況なのに笑顔で言ってくださったのです。その人を自分はすごいと感じ尊敬しました。こんな人になりたいと思いました。

ベースに帰って他の方々と一緒に意見交換をしました。するとそこには、様々な人がいて自分をほかれるような人たちばかりでした。自分もそんな人間になれるだろうかと思いました。

2日目、3日目は「自分のことを誇れるようなことをしよう。」ということテーマにして仕事をしました。役に立てたかどうかは微妙だったかもしれませんが自分なりにテーマを達成できたように思います。最後に、自分は「どうして行ったのか。」という問いに答えることはまだできないのですが、この文を書きいろいろなこと思い出していくと「別に答えられなくてもいい。」と思うようになりました。なぜなら、今回の経験はとても言葉で言い表せるものではないと思ったからです。だから次この問を聞かれたら、「行くとわかるよ。」と答えようと思います。



泥に埋もれていた一室も、1日かけて家財を搬出し清掃

◆今回の献金期間◆

中学1年生～高校Ⅱ年生 3月13日(月)～20日(月) 中学3年生は18日(土)

※年度末ですので切お守りください。

小鳩会委員は、担任の先生と相談して、献金期間のうち都合のよい機会を活用してクラス献金をお願いします。

◆今回の献金先◆

- ① カリタス(トルコ地震支援)
- ② ムリンディ/ジャパン・ワンラブ・プロジェクト(ルワンダ・周辺国への義肢支援)
- ③ 東日本大震災ともしび会(被災遺児・生徒・学生の就学支援)
- ④ 若王寺こども食堂(地域交流・支援)



四旬節 祈りの集い～学園聖堂にて～

3月8日（水）午後4時30分より、祈りが捧げられました。

カトリック教会は、四旬節を迎えています。キリストの受難を黙想し、世界の人々の苦悩に、主が共にいてくださることに感謝し祈りました。特に、連日の報道に心を痛めるウクライナ戦争をはじめ各地の争い、トルコ・シリア大地震、そして今だ過去ではない阪神大

震災と東日本大震災、その被災した方々の苦しみや悲しみを心に留めて、復興と心の平安を祈願するとともに、苦しみに寄り添ったイエスにならって、私たちが支えあって生きることができるよう、集い祈りました。



ボランティア募集

3月25日（土）に、「若王寺こども食堂」（JR東西線塚口駅集合予定）のボランティアを計画しています。募集人数は10名程度です。参加希望の高校生は、3/16までに宗教部・北川先生まで。



2月7日（火）保護者会募金

2月7日（火）、寒さの中、保護者会募金を行いました。今回はペシャワール会（アフガニスタン支援）とチャイルド・ケモ・ハウス（小児がん患者とその家族の支援）のために献金をお願いしました。多くの保護者の方々にご支援いただくことができました。また、生徒の皆さんも、下校時に募金して下さる姿を目にしました。お一人おひとりが思いを持って献金をしてくださっていることをとてもうれしく感じます。今回の献金は2月6日未明に発生したトルコ・シリア地震の緊急支援のためにも使わせていただきました。被災者と行方不明になっている方、亡くなった方、家族を失った方など悲しみの中にある方々のために、私たちも祈っていきましょう。今回、募金活動のボランティアをしてくださったのは、高校Ⅱ年の門屋さん、荒井さん、前田さん、関さん、高校Ⅰ年の北川大さん、北川清さん、松尾さん、中学Ⅱ年の増田さん、寺西さん、有信さん、中学Ⅰ年の山本さんでした。ご協力ありがとうございました。

